

第82回「資本論を読む会」のご案内

DAS KAPITAL

☆次回は-12月22日(月曜日)午後6時30分からZoomで開催

第9章「前貸資本の総回転。回転の循環」、第10章「固定資本と流動資本に関する諸理論(前半部)」[岩波文庫(四)p269-p292L8]

第81回「資本論を読む会」は11月24日(月)に開催。参加は今回も7名でした。第8章「固定資本と流動資本」の第2節「固定資本の構成部分、補填、修繕、蓄積」をやりました。



固定資本の摩損、修繕
追加資本は...

相変わらず文章は独特な書き方ですが、内容的には「相当に分かりやすい」印象ですね。固定資本(機械や建物、設備など)が、使われているうちに補填、摩損したり修繕が必要になるのは当然分かることです。ただその摩損は「消耗によつて使用価値を失う平均程度に比例して、漸次に生産物に引き渡す価値部分である」(p251)とあります。少し議論になった点は「労働過程における使用から生ずる維持は生きた労働に具わる無償の天恵である」(p254)とのくだり。「資本家ボロもうけ」なのは労働者が「(保存のための)掃除労働という追加労働」を当時はただでやられていたようです。これを「労働者が自己の一身をもって支払う」(p256)と書かれています。現代ならこうはならないですよね。本来の修繕に必要な追加資本(労働力を含む)は…「流動資本に属する」と書かれています。後は「簿記」とか「保険」という言葉も登場してきます。「償却資金の必要性」も語られ、最後は「退蔵貨幣」がまた登場。シメは「信用制度の発展につれて…この貨幣は退蔵貨幣としてではなく資本として機能するが…その利用を委託された他の資本家たちの手で機能する」ことになる。懇親会は時節柄、高市政権やニューヨーク市長選での民主社会主義者マムダ二氏の勝利などの話題でにぎわい、11時頃解散となりました。次回のレポーターはSugiさん、お願いしますね。「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。◎ <http://socialistho.cafe.cocacn.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから- anak

レポーターから- anak

レポーターから- anak

レポーターから- anak

レポーターから- anak

レポーターから- anak

第2節「固定資本の構成部分、補填、修繕、蓄積」

・固定資本の個々の要素は、生存期間を異にし、したがって回転期間をもこととする。

(摩損) ・例えば鉄道…鉄条、枕木、土工、停車場建設、橋、トンネル、機関車車両

・摩損物のもっとも主要なものは軌道と車両である。

・早期の経営設備更新を、比較的大きな社会的規模で強要するものは、主として恐慌という破局である。

・摩損は…固定資本がその消耗によってその消耗によってその使用価値を失う平均程度に比例して、漸次に生産物に引き渡す価値部分である

(補填、修繕)-固定資本の他の諸要素については、周期的または部分的更新が可能である。

・労働過程における使用から生ずる維持は生きた労働に具わる無償の天恵である。

・保存のための積極的な労働支出…掃除労働、一機械の使用が必要ならしめる不断の追加労働-この(追加)労働に支出される資本は…やはり流動資本に属する。

(保険)-摩損の補填とも、維持および修繕の労働とも全く異なる…自然的異変、火災。

・洪水等による破壊に関する保険…これは剰余価値から補填されねばならないもの

(償却基金の必要性)

・貨幣の総量が退蔵貨幣と流通手段とに分割される割合はたえず変動する。

・退蔵貨幣は、交互に流通手段として機能してはまた再び退蔵貨幣として流通貨幣量から分離される。